

夏の高校野球パーフェクトガイド2016

北海道・東北

関東

北信越

東海

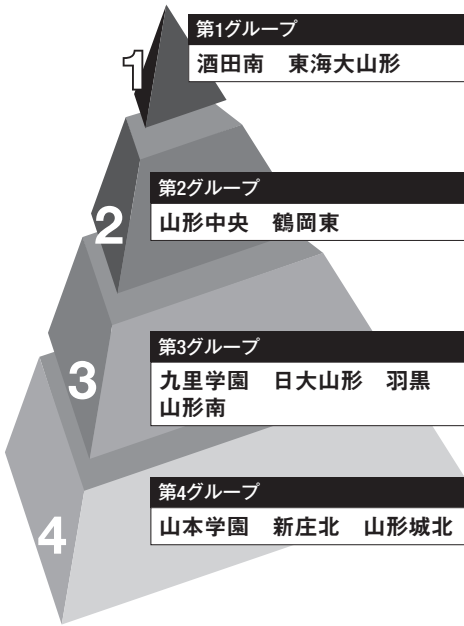
近畿

中国

四国

九州沖縄

地区勢力ピラミッド



秋季大会

鶴岡東	11
山形城北	8
酒田南	14
東海大山形	10
新庄北	6
鶴岡南	3
山形中央	9
日大山形	2

優勝 酒田南

春季大会

鶴岡東	13
山本学園	1
東海大山形	7
山形中央	6
酒田南	11
山形南	4
新庄東	0
九里学園	8

優勝 酒田南

大会展望

強力野手陣擁する酒田南が筆頭候補

打力で勝る酒田南が5年ぶりに春の県大会で優勝。秋に続き、2季連続で山形の頂点を極めた。近年、結果を出せていなかった東海大山形だが、8年ぶりに東北大会に出場。下級生時から試合経験を積んできた選手たちが県大会でサヨナラ勝ちを続けるなど、粘り強さが出てきた。秋春4強の鶴岡東も自力はあり、夏連覇の可能性は十分に持っている。その鶴岡東を春の県大会3位決定戦で下した九里学園も虎視眈々。山形中央も黙ってはいない。

移る名将、去る名将

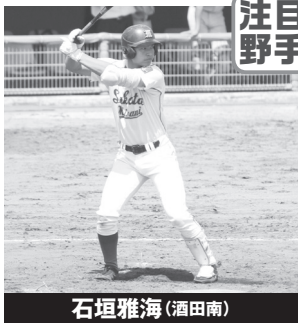
1980年から2001年まで東海大山形で指揮し、同校を春夏8度、甲子園に導いた滝公男氏が今年4月、山形学院の監督に就任し、初めての夏を迎える。2004年には母校・東海大翔洋を率いて甲子園に出場している滝監督。再び、山形から聖地を目指す。その一方で、日大山形、青森山田で通算22回の甲子園出場の実績を持つ、山形商・渋谷良弥監督は今夏限りで退任する。山形はもちろん、東北地方の高校野球を牽引してきた名将にとって最後の夏だ。

レ。まだ粗削りだが、伸びしろを感じさせる。石垣の後ろを打つ長嶺怜も勝負強さがある。

復活の兆しを見せた東海大山形もよく打つ。1番・河合海斗は出塁率が高く、2番・森田啓介は打ってチャンスを広げられる。投手欄でも紹介した有方は県大会2試合でサヨナラ打を放ち、技術はもちろん、そういう場面で打席が回ってくる強運も持つ4番打者だ。

勝負強さでは、2年生の門脇増太（九里学園）が神がかっていた。鶴岡東との3位決定戦で全5打点

注目野手



石垣雅海(酒田南)

を叩き出す奮闘っぷり。強引に引っ張らず、左打席から逆方向へしっかり打ち返せる。

日大山形の八嶽怜、浅賀雅人、鈴木琉生は能力が高く、強烈なスイングを見せる。甲子園で安打を放っている丸山大（鶴岡東）は広角に強い打球を打てる左打者。佐藤要（鶴岡東）もパンチ力がある。175センチ95キロの山口啓太（長井）は初球から思い切ったスイングができる長距離砲だ。1年夏に甲子園を経験している鈴木一朗（山形中央）は堅実な守備力にシヤープな打撃が光る。山形南の捕手・渡邊航大はインサイドワークに定評がある。昨年12月の台湾遠征では山形県選抜の正捕手を務めた。